

## 9-9 第22回民教連の強化・発展をめざす懇談会 日程

日本民間教育研究団体連絡会

### 開会 ( )

- |   |      |       |
|---|------|-------|
| 1 | 開会   | 13:00 |
| 2 | 開会挨拶 | 13:01 |

### 第1部

- |   |                    |       |
|---|--------------------|-------|
| 3 | 議長選出               | 13:05 |
| 4 | ①2011年度活動総括案 提案    | 13:07 |
|   | ②2011年度決算報告 会計監査報告 | 13:22 |
| 5 | 質疑 討論 採決           | 13:32 |
| 6 | ①2012年度活動方針 提案     | 13:52 |
|   | ②2012年度予算案 提案      | 14:07 |
| 7 | 質疑 討論 採決           | 14:17 |
| 8 | 議長解任               | 14:32 |

### 休憩

14:35

### 第2部 ( )

14:45

- |    |         |       |
|----|---------|-------|
| 9  | 報告① 絵の会 | 14:50 |
| 10 | 質疑 討論   | 15:20 |
| 11 | 報告② 技教研 | 15:35 |
| 12 | 質疑 討論   | 16:05 |
| 13 | 報告③     | 16:20 |
| 14 | 閉会挨拶    | 16:40 |

### 9月代表者会 ( )

16:45

終了予定

17:00

## 日本民教連二〇二一年度活動総括

はじめに

日本は、昨年三月一日に発生した東日本大震災からの復興途上にあります。しかし、何よりも優先されなければならない被災地の復興よりも、「民間活力の導入」や「復興」と称した「公共投資」が復活しています。原発事故に関しても、政府は昨年末の「収束宣言」以降も、原発からの撤退を求める国民世論に反して大飯原発の再稼働に踏み切りました。民教連加盟の各研究団体は、被災地の支援に取り組みとともに、子どもとともに震災に学ぶ多様な教育実践を積み重ねてきました。

格差の拡大と子どもの貧困化

財政危機が深刻化する下で、子どもをめぐる状況も悪化しています。我が国では、所得が生活保護基準以下世帯の八割以上が生活保護を受けていません。この結果、子どもの貧困化も深刻な状態です。文科科学省の「学校基本調査」によれば、一年以上所在不明のまま就学が確認されない「居所不明

児童生徒」が昨年は一千人を超え、一昨年の三・六倍になっています。また無保険のために医療を受けられない子は、二〇〇八年で三万人を超えています。

また過酷な原発事故が発生し、長期にわたる避難を余儀なくされている子どもたちの心身の健康も憂慮すべき状態です。長期にわたる被ばくが子どもたちに与える影響を低減させるために、除染などの万全の策をとることが求められています。

東京・大阪の「教育改革」と  
「子ども・子育て新システム」

東京都の石原都知事は、「破壊的教育改革」を標榜し、新自由主義的な教育観にもとづいて学力格差の一層の拡大を図ろうとしています。橋下大阪市長も、「教育は二万%強制」と称して教職員に対する管理統制を強化しています。大阪府議会では、「君が代起立強制条例」の採決が強行されました。こうした憲法と民主主義を破壊する暴挙は一地方自治体の問題にとどまらない重大な問題です。

「子ども・子育て新システム」

も就学前の子どもたちの幼児教育・保育における国や自治体の責任を放棄して利潤追求の渦の中に子どもたちを丸投げする暴挙といわざるをえません。保育や幼児教育の充実と逆行するこれらの動きを「子どもの権利条約」を守る観点から批判して是正する取り組みが重要になっています。

改訂学習指導要領の本格実施

二〇二一年度から、中学校でも学習指導要領が本格実施されました。看過できないのは、「学習指導要領案」に異例の修正がされたことです。修正の基調は、国家主義的な教育の徹底という点にあります。「伝統と文化を継承し」という表現から、「伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国」と郷土を愛しに書き改められました。小学校一・二年の国語に神話が盛り込まれ、音楽では君が代は「いずれの学年においても指導すること」とされました。中学校における武道の必修化は国家主義的な教育の一環であるにとどまりません。指導者の育成もままならない状況での必修化によって教育現場は混乱し、柔道による事故も多くなりつつあります。また中学校の社会科

では、「我が国の安全と防衛及び国際貢献について考えさせる」とされ、新たに「国際貢献」が付け加わりました。

今回の学習指導要領の改訂にもなつて、学習内容も増加して授業時間が上乘せされ、長期休業期間の短縮も行われました。

全国学力テストは、自主参加校が増えており、子どもに「学力テスト対策」を行う学校も出てきました。橋下大阪市長は、学力調査の学校別成績を公表するとしています。橋下市長は、学力調査は、学校間の競争を煽ることになるのは必至です。文科科学省は、来年度からは全員参加で行うとしています。全国学力テストの弊害がますます懸念されます。

教科書の採択をめくつては、昨年の夏「新しい教科書をつくる会」系の育鵬社の中学歴史・公民教科書の採択率が四%と大幅に増えました。歴史修正主義と憲法改悪を煽る内容に対する批判が重要で、最近の傾向で重視しなければならぬのは教科書検定の対象とならない副読本の動向です。都教委作成の『江戸から東京へ』で、国家主義や歴史修正主義的傾向が盛り込まれました。大阪では、ジェ

ンターフリーに反する家庭科の副読本作成が問題になりました。

こうした自治体ポピュリズムによる教育内容への強権的介入に対して機敏に反撃することが求められています。今こそ戦後民主主義の真価が問われています。

### 【研究部】

一、二〇一一年夏の全国研究会のまとめを行いました。加盟団体のほぼ全部を集約し、参加者が一万四千名を超えたことがわかりました。特徴として、東日本大震災や原発事故に関する取り組みがなされたこと、二十代、三十代の参加者が増えている団体もあること、参加団体に呼びかけて多数の特別講座を設けたこと、県・市、教育委員会、新聞社等の後援が取れたことなどがあげられます。

二、加盟団体の共同研究は、国語関連団体で定期的に行われたほか、社会関連団体が課題によるシンポジウム等を開きました。

三、「代表者会議」での学習会は、今日的な課題と「交流研究会」分科会から報告を受け、交流し学び合いました。

十月 教科研・山口理恵さん  
十一月 大阪維新の会「教育基

本条例」案をどう見るか（世話人会）戸倉信一さん

一月 性教協・谷森櫻子さん  
二月 手労研・鈴木隆司さん  
三月 日文教・中村龍一さん  
四月 「日の丸・君が代」最高裁判決をどう見るか 吉野典子さん（都立高校教員）

五月 美術教育を進める会・齊藤武博さん

七月 教科研・石田かづ子さん  
四、「第二回日本民教連交流研究会」は、十二月四日、私立和光小学校で、「すべての子どもに楽しい学びを 学びを生きる力に」のテーマのもとに三十団体・一〇三名の参加で行われました。講演は「いま、子育て・教育の基本を考える―地球時代、子どもの発達・子どもの権利の視点から― 堀尾輝久さん（東大名誉教授、DCI副代表）でした。

分科会は

1 文学の読みにおける話合い―語り手について考える―  
2 一人ひとりが輝く芸術教育  
3 科学教育実践講座  
4 歴史の中でとらえる今日的課題

5 学びを暮らしに生かす  
6 生きる力を育む

7 仲間と共に育つ  
8 地域と学校をつなぐ

全体会の堀尾輝久講演を基礎にして、より深い交流ができました。レポート数は、二十八本でした。

### 【編集部】

二〇一一年度「民教連ニュース」は、二〇一五年から二〇一〇号まで六回発行しました。編集に際しては、①実践報告を含めた各種集會報告や時期にあつた論文など、②子どもの姿が生きて見え見えのレポート、③図書紹介、④各参加団体の動向を中心に掲載できるようにしました。以下、各号の①②③④の一覧です（敬称略）。

#### 二〇一五年（二〇一一年九月号）

①六月代表者会議学習会講演「福島原子力発電所事故」（釜野淳、島原千力発電所事故）（釜野淳、第一四二回学校体育研究同志会全国研究大会「東京大会」報告）「すべての子どもたちの豊かな運動文化と生きる力をくむび つながりともに未来へ」（片桐雄一）、特別講座・地理に参加して（戸倉信一）、「教育研究全国集會（二〇一一年）千葉に参加して」（池上正道）  
②「『走れメロス』の授業」（大山

圭湖・児言研）、◇「鑄造によるキ―ホルター製作」とろける金属輝く金属 金属加工」（堀江弘治・産教連）  
③石井建夫著作集「はてな社会科学―再び、希望と生氣を語る社会科学―」（白鳥晃司）  
④「子どもにとって危険な二つの中学校教科書の採択について」（編集部、「アピール」「日の丸」君が代」の強制を許さず、思想良心の自由・教育の自由を守りぬこ）（歴教協）

#### 二〇一六年（二〇一二年二月）

①二〇一一年度中学校教科書採択の結果と問題点―育鵬社版採択の責任を今後も働き続ける―（高嶋伸欣・地教研）、『ここから裁判』控訴審判決は原告が『再び勝訴！』（谷森櫻子・性教協、日本民教連二〇一〇年度活動総括・日本民教連二〇一一年度活動方針、九・一―第二二回民教連の強化・発展をめざす懇談会開く）  
②『小学校英語活動』をめぐる新英研の取り組みと今後の課題（瀧口優 新英研）  
③渡部謙一著『新自由主義と切り結んだ教育実践の葛藤 東京の「教育改革」は何をもたらしたか』（戸倉信一）  
④アピール「教育に強制はなじまない」君が代強制

条例」の廃止を求めます」青山政利氏他、「科教協及び自然科学教育にたずさわる皆様へ 原子力発電所の事故に関するアピール」(科教協)、「普天間基地の無条件撤去を求め、『武器輸出三原則』見直しに反対する」(平民研連)、「原子力発電に頼らないエネルギー政策への転換を求める！」(地学団体研究会)

二〇七号 (二〇二二年一月号)

①第二五回民教連研究交流集会・堀尾輝久講演のまとめ「いま、子育て・教育の基本を考える」(戸倉信一)②「人と物の循環型教育」をめざしたMOTTAIINAプロジエクト」(飯田耕平・全国農業教育研究会)③「八重山中学公民教科書採択問題」(柴田健・地教研)④「教師の同僚性を高めるために」(池田真澄・新英研)⑤「災害に備えて」(命と暮らしを守るために)⑥「海野りつ子・家教連」⑦「震災と原発」にとりくむ教育実践と教育運動に学ぶ」(藤岡貞彦・教科研)⑧「子どもたちの関係を育み、自治へ導く 遅刻の裏側に潜むものと集団のルール」(関口武・全生研)⑨丸浜江里子「原水禁署名運動の誕生」東京・杉並の住民パワーと水脈」(中原正木)

二〇八号 (二〇二二年三月)

①「小学校でのモノづくり」(鈴木隆司・手労研)②「どの子にも勉強ができるよるこびを」地域勉強会の試み」(赤堀嘉範・学力研)③「悼む 林光さん」(米沢純夫・音楽教育の会)④「機軸返還・金正日総書記死去などをどうとらえ、教えるか」(三橋広夫・歴教協)⑤「東日本大震災における全養サの取り組みについて」(渡辺みどり・全養サ)⑥「放射線安全神話」づくりを許さない」日本原子力文化振興財団に委託した放射線副読本」(西田昭司・東京民研共同研究者)⑦「ドキユメンタリー映画「かすかな光へ」を観る」(奥本秀明・音楽教育の会)⑧「映画「かすかな光へ」監督・森康行さんに聞く」(戸倉信一)⑨「声明・国歌斉唱義務不存確認等請求訴訟(予防訴訟)原告団・弁護団

二〇九号 (二〇二二年五月)

①「どうなる大阪の教育」三条例のねらいと教育現場」(長野仁志・大阪府立高校教員)②「六年「電気のはたらき」(伊東裕子・科教協)③「高と俊とリーダーたち」(小室貴・全生研)④「学校体育同志会機関誌「たのしい体育・

スポーツ」、出版物の紹介」(森敏生)④日本民教連二〇二二年夏季全国集会一覽

二一〇号 (二〇二二年七月)

①五月代表者会議学習会講演「日の丸・君が代」最高裁判決をどうみるか」(吉野典子・都立高校教員)②「運動会で「七頭舞」を実践して」(伊藤源子・民舞研)③「カメックス、五人を繋いで！」(岸康裕・日生連)④「想像力を高める文学の授業めざして」『モチモチの木』の授業から」(渡辺真由美・児言研)⑤「『整数』について」(塩・三・沢宏夫・数教協)⑥「どの子も、お金の心配しないで学校において」(高津圭一・竹山トシエ・制度研)⑦「家教連アピール」私達は維新の会大阪市議団が、白紙撤回した「家庭科教育支援条例案」にある小中高の「家庭科副読本」作成に強く反対の意思を表明します。」

【組織部】

一、九月一日、「第二二回民教連の強化・発展をめざす懇談会」を南大塚地域文化創造館で開催しました。第一部の拡大代表者会で二

〇二〇年度の総括と決算の報告を行い承認しました。また、二〇二一年度の活動方針と予算案を提案し、加盟団体出席者からの質疑・討論を経て決定しました。

第二部では、「夏季全国研究集会の成果」をテーマに、日生連から大震災後の被災地の取り組み、体育同志会から他加盟団体とのコラボレーションによる研究交流の経過報告等を受けました。その後、音楽教育の会、家教連、全養サ、日作などから、集会の特徴やエピソード等が語られ、活発で有意義な意見交流ができました。

二、二〇二二年版加盟団体組織一覽案を作成し各団体に配付、加除訂正した『最新版』を各加盟団体に提供しました。

参加者は三〇名でした。

三、六月一日、都道府県民教、民教連九条の会、日本子どもを守る会との共催で、「子ども・教育・憲法を守る合同集会」を東京・豊島区生活産業プラザにて開催しました。講演は、小澤隆一さんが「憲法に基づく政治と教育」をテーマにして混迷している政治の背景にある小選挙区制の問題を丁寧に説明されました。続いて小関啓子さんが「教科書って？杉並の『つく

る会教科書』反対運動から学んだこと」という演題で子どもたちの学習する権利を大切にしてきた草の根運動を報告されました。

参加者は三名でした。

四、世話人会との協力で加盟団体へ働きかけ、前年度より代表者会の出席者や集会への参加者が五、六団体（人）増えました。

五、各都道府県民教の実態把握を進めてきました。都道府県民教との合同集会の持ち方や資料提供、情報交流のあり方等については、これからの検討課題として残されています。

## 二〇二二年度 活動方針

### 【研究部】

一、第二十六回「日本民教連交流研究会」を十二月二日、私立和光小学校で開催します。集会テーマは「すべての子どもに楽しい学びを 学びを生きる力に」とします。内容は例年通り「講演」と「分科会」です。分科会は、各団体からのレポートによって構成します。

二、二〇二二年夏の全国研究会の状況・成果・課題等の集約をします。

三、毎月開催される「代表者会議」のはじめに設定される学習会は、加盟団体の相互の深い学びになっています。この学習会をさらに充実させていきます。

### 【編集部】

①二月の交流研究会をはじめ各種集会上における記録を収録します。

・実践報告を含めた各種集会報告や時期にあつた論文など

・子どもの姿が生き生きと見えるレポート

・図書紹介（各加盟団体が発行したものを積極的に紹介）

・各加盟団体の動向

②夏季研究会一覧表作成にあたっては多くの加盟団体の掲載を希望し、字数・締め切りを厳守するように協力を求めます。

### 【組織部】

一、定例の代表者会ならびに研究会の参加者を増やせるように働きかけを強めます。

二、各都道府県民教に連絡をとり交流を深められるようにするとともに、実態調査を行います。

三、「子ども・教育・憲法を守る合同集会」について、持ち方を検討します。

四、各加盟団体に働きかけ、世話人会の増員をお願いするとともに代表者会への参加が得られるように協力を要請します。

### 【世話人任務分担】

世話人代表

〃 副代表

事務局長

財政

研究部

〃

編集部

〃

〃

組織部

〃

事務局員

会計監査

〃

顧問

民教連九条の会

「他団体担当」

平民研連

子どもセンター

子どもを守る会

子どもを守る文化会議

緒志久子

高柴光男

戸倉信一

五島明子

緒志久子

青木峰子

戸倉信一

白鳥晃司

池上正道

金子 眞

高柴光男

新田 緑

清水徳人

村木栄一

中原正木

上石正明

中原正木

高柴光男

金子 眞

金子 眞

金子 眞

日本民教連 11年度決算

収入の部

支出の部

項目	11年度予算	11年度決算	備考	項目	11年度予算	11年度決算	備考
前年度繰越金	447,980	447,980		消耗品費	150,000	142,625	
分担金	1,300,000	1,480,000		通信費	100,000	168,920	
賛助会費	170,000	130,000		リース代	300,000	275,925	コピー機等
Mニュース代	800,000	714,000		電話代	80,000	70,642	
夏季集会一覧表代	120,000	150,000		家賃	840,000	840,000	
名刺広告代	45,000	39,000		光熱費	70,000	68,567	
使用料	984,000	984,000		渉外費	140,000	58,830	
集会資料代	100,000	91,500		加盟費	53,000	48,000	
カンパ等	40,000	39,800		事務局費	600,000	600,000	
雑収入	2,000	1,165		事務交通費	96,000	96,000	
合計	4,008,980	4,077,445		組織活動会議費	30,000	4,120	
				組織活動研修費	90,000	129,970	
				組織活動交通費	180,000	118,600	
				機関紙編集費	160,000	127,216	
				機関紙印刷費	900,000	816,747	
				雑費	50,000	28,000	
				予備費	169,980	0	
				合計	4,008,980	3,594,162	

差引残高

483,283 円

(次年度に繰越)

銀行預金	250,275 円
ゆうちょ銀行	102 円
振込口座	0 円
現金	232,906 円
合計	483,283 円

会計監査報告

帳票書類等適正に管理されている

2012. 8. 8

会計監査

杉本 一

清水 徳

日本民教連 2012年度予算

収入の部

支出の部

項目	11年度決算	12年度予算	備考	項目	11年度決算	12年度予算
前年度繰越金	447,980	483,283		消耗品費	142,625	150,000
分担金	1,480,000	1,400,000		通信費	168,920	170,000
賛助会費	130,000	140,000	現会員14人	リース代	275,925	140,000
Mニュース代	714,000	780,000		電話代	70,642	80,000
夏季集会一覧表代	150,000	88,000	2000円に値下げ	家賃	840,000	840,000
名刺広告代	39,000	51,000		光熱費	68,567	70,000
使用料	984,000	984,000		渉外費	58,830	100,000
集会資料代	91,500	90,000		加盟費	48,000	50,000
カンパ等	39,800	40,000		事務局費	600,000	600,000
雑収入	1,165	2,000	本売り上げ 利子等	事務交通費	96,000	96,000
合計	4,077,445	4,058,283		組織活動会議費	4,120	30,000
				組織活動研修費	129,970	130,000
				組織活動交通費	118,600	180,000
				機関紙編集費	127,216	160,000
				機関紙印刷費	816,747	900,000
				雑費	28,000	50,000
				予備費	0	312,283
				合計	3,594,162	4,058,283